



## コミュニティ推進協議会の基本方針に組織強化 23の単会 地域課題の解決に独自の取り組み

コミュニティ推進協議会の20年度活動の基本方針に、子どもや高齢者を守る活動、自主防災組織の確立、ごみの分別収集の徹底による資源化や減量化、落書き防止や

不法投棄対策などの環境美化、子どもを育む活動、地域福祉の活動、コミュニティ組織の強化、活動拠点である交流センター機能の充実などを掲げました。

これらをテーマに各単会が特色を活かし、独自の取り組みで地域課題の解決に向けた活動を進めています。諏訪学区では住民の足である公共交通の維持について検討が始まりました。

### 諏訪地区の「公共交通のあり方を考える」アンケートやブロック別懇談会

近年、諏訪地区でも自家用車の普及や少子・高齢化で、路線バスを利用する人が年々減少しています。この状態が進むと近い将来、諏訪地区を走る路線バスの減便や廃止に追い込まれる可能性があります。

平成14年2月の道路運送法改正で、需要調整規制が撤廃され、安くて多様なサービスが期待される一方、不採算路線となった路線の減便や撤廃が容易になりました。

このような中で、生活基盤として通勤や通学、買い物や通院などの足である交通手段の維持確保は、まちづくりの大きな課題になりました。

諏訪学区コミュニティ推進会の平成20年度総会に、主な事業として提案した「将来における公共交通のあり方を考える」案が承認され、現在、日立市の支援で公共交通委員会を立ち上げ活動を展開しています。

運行経路や便数・時間帯・停留所などをどのようにすれば、地域の人たちが路線バスを利用するのか、どうすれば将来につながるのかを確認するため、ブロック別懇談会やアンケート調査を実施しました。

地域の人たちの意見や要望を基に、

路線バス事業者と協議し試験運行計画書を策定、9月末から約3ヶ月間



さて、試験運行バスのルートは!!

の運行を計画しています。有効性が確認されれば、引き続き協定を結び路線バス維持も可能になります。

この事業は路線バスの減便や廃止等を回避し、生活交通を確保する市民参画のモデル事業で、行政支援のもとで実施されます。地域と路線バス事業者が、利便性向上や乗車促進を目的に協定を締結し、協働で行う「パートナーシップ協定方式」です。

### 単会のコミュニティ活動へ参加を!

豊浦、中小路、水木、大みかの4

学区のコミュニティ単会の会長交代がありました。会長、拠点、電話をお知らせします。活動へご参加ください。

### 単会会長(センター運営委員長)と活動拠点

	地区・学区	会長	活動拠点	電話
1	十王	檜村 次男	十王交流センター	39-2411
2	豊浦	山田 孝志	豊浦交流センター	43-5755
3	日高	志賀 勝弘	日高交流センター	42-4050
4	田尻	井坂 義尚	田尻交流センター	42-1552
5	滑川	遠藤 進	滑川交流センター	22-1654
6	宮田	大内 十寸	宮田交流センター	27-6835
7	中里	石川 諒一	中里交流センター	70-8005
8	仲町	古河 利孝	仲町交流センター	21-5564
9	中小路	矢部 敏晴	中小路交流センター	22-6483
10	助川	永井 久善	助川交流センター	23-0955
11	会瀬	柴田 和彦	会瀬交流センター	25-1577
12	成沢	黒澤 宣明	成沢交流センター	35-5587
13	油縄子	嶋崎 敏	油縄子交流センター	38-7531
14	諏訪	齋藤 邦夫	諏訪交流センター	33-3841
15	大久保	蛭田 保夫	大久保交流センター	34-0535
16	河原子	梅原 孝喜	河原子交流センター	33-3746
17	塙山	西村ミチ江	塙山交流センター	34-5404
18	大沼	大江日出雄	大沼交流センター	35-8329
19	金沢	鴨志田勝雄	金沢交流センター	36-3985
20	水木	高橋 幸隆	水木交流センター	52-3225
21	大みか	川村 広	大みか交流センター	53-5211
22	久慈	星野 高恵	久慈交流センター	52-0165
23	坂下	塙 昭一	久慈川日立南交流センター	52-3155

## 生活環境をよくする活動 **ごみの分別収集・落書き消し**

エコな生活への取り組みや分別収集の徹底、落書き防止対策、不法投棄追放、まちの美化などコミュニティ単会で取り組んでいます。分別収集やエコな生活など一人ひとりが実践することで成果を挙げることができます。

### 順調に進む 再生ビンの新分別 案外簡単！豊浦・日高で先行実施

平成9年にできた「容器包装リサイクル法」により、市町村は、ビンの再生のために、ビン3色に分別



この分け方でいいの？

して排出することが求められていますが、日立市では毎年2千万円以上の費用をかけて、業者に委託し分別してきました。

今年4月から経費節減のため、従来から行ってきた十王町に加え、豊浦・日高学区をモデル学区として新しい分別に取り組みました。分別の方法は、生きビン（一升ビンとビールビン）と再生ビンに大別します。さらに再生ビンは無色ビン、茶色ビン、その他の色のビンの3種類に分けます。住民のみなさんは、「それほどの手間はかからないし、分け方も単純でわかりやすく、案外簡単」と話していました。

市の環境衛生課では、現在のところ

特別な混乱もなく、結果は良好なので、市職員の住民への説明などの時間の問題がクリアされれば、早い時期に全市での実施に移りたいとのこと。現在、各単会の実施可能な年度を調査しています。

### 落書き消し隊 出発！ ～約150名が落書きを消す～

環境都市フェスタにあわせた落書き消しキャンペーンは今年で2年目になります。地区ごとに、ガードレールなどの落書き消し作業を23の各コミュニティから選出された実行委員を中心に実施しました。

作業は概ね学区ごとに実施しましたが、大江日出雄会長の大沼学区で



まちをきれいにしよう!! 出発式にて

は、泉丘中学校生徒十数名が教頭先生と共に参加し、先輩の書いた壁画の上に書かれた落書きを消しました。

十王地区では佐藤二郎実行委員を中心に、十王、豊浦、日高、田尻

の4単会が合同で、十王地区の国道461号跨線橋橋脚の大きな落書き4箇所約40㎡を、1時間ほどで消すことができました。ペンキをローラーで手際よく塗った参加者は、「これできれいになった、みんなでやると早い」と語っていました。「落書きをする人たちの力を、別なかたちで地域の中で活かせるようにできたらいいのになあ」と、感想を語る実行委員の言葉に、地域を守る人の心の温かさを感じました。

### 市民カレッジで講演 コミュニティ活動の実践報告も

シニア世代が楽しく学びまちづくりの指導者となることを目的にした、ひたち生き生き百年塾推進本部が主催し、茨城キリスト教大学との共催で開講した「市民カレッジ」で、6月18日、コミュニティ推進協議会の鴨志田勝雄会長が、コミュニティ活動について講演しました。

昭和46年に日立市民運動実践協議会が発足してからのあゆみや組織、活動の基本方針などを、画像を交えて講演、事例紹介では仲町・日高・会瀬学区の各代表者が報告しました。受講生からは独自性や自主性のあるコミュニティ活動は素晴らしい。住民同士の関係が希薄になっている中で、運命共同体のコミュニティ活動の在り方を本講座で学びたいとの感想もありました。

## 第23回国民文化祭・いばらき2008 コミュニティ推進協議会も協力します

○平成20年11月1日(出)～9日(日)

○県内34市町村を舞台に64事業を実施

○日立市の主催事業

- ①ひたち野外オペラ「アイダ」 ②こども芸術祭
- ③合唱の祭典 ④うたの浜辺音楽祭 ⑤吉田正特別企画展

○日立シビックセンター・日立新都市広場・マールホー

ル・日立市民会館・多賀市民プラザ・ゆうゆう十王Jホール・日立市民運動公園陸上競技場・吉田正音楽記念館

○国民文化祭は、全国で活動している文化・芸術活動の愛好者や団体が一堂に会し、音楽や演劇、伝統文化の競演、一般公募により出品された文芸や美術作品の展示、開催地独自の文化・芸術イベントなどを行う国内最大の文化・芸術の祭典です。

○会場周辺のコミュニティ単会が清掃作業などの協力をします。

## 新たな課題にチャレンジ 子どもの居場所づくり・シニア世代のセカンドライフ

### 夏休み子どもたちの居場所 「おおせっ子サロン」

会瀬学区コミュニティ推進会青少年育成部は、会瀬学区民児協連絡協議会（民生委員児童委員）と連携して、地域の大人と交流を図る目的



人気のパンポンに挑戦!!

で子どもたちの居場所づくり「夏休みおおせっ子サロン」を開設しました。ひたち生き生き百年塾学校部会の「地域子ども行事への支援」事業も受け、会瀬小4年生から6年生を対象に参加者を募集、1日平均30名の申込み登録がありました。

会瀬交流センターを拠点に、7月28日、8月4日、18日、25日の4日間実施、午前10時から午後4時までの6時間、おにぎり2個持参でのサロンを開設しました。

午前中のプログラムは、「夏休みの作品を作ろう。日立製作所日立事業所の小平記念館、1トン爆弾跡地、創業小屋見学。グランドゴルフに挑戦。バーベキューと縁日遊び」、

午後は、「映画会やパンポン」など、集団で遊ぶ楽しさ体験でした。最終日のバーベキューと縁日遊びは民生委員も全員参加で実施し、地域の大人と交流する機会となりました。

### わいわい楽集会 多彩なプログラムで!

塙山学区住みよいまちをつくる会では、シニア世代のセカンドライフを楽しく「わいわい楽集会」が、10回シリーズで実施されています。

コミュニティ活動、日立の先人たちの歩み、地球温暖化を楽しく学ぶ、生活習慣病よさようなら、ボランティアの楽しい体験談、男の料理教室、



昔の日立を知る

地域で楽しく有意義な人生を、バスによる記念館や公共施設めぐりなど多彩なプログラムが組まれています。

日立市郷土博物館や広聴広報課、エネルギーを考える会「ひまわり」、佐藤由紀子さん、帯刀治茨城大学教授などの協力で、地域社会で有意義な人生を過ごすためのきっかけづく

### 23のコミュニティ ホームページを全単会で開設

日立市コミュニティ推進協議会では、コミュニティ活動の情報発信を活動のテーマの一つに掲げ、単会のホームページ開設を進めてきましたが、19年度末に23のコミュニティ全単会でホームページが立ち上がりました。県外からの問合せも増えています。

単会のホームページを担当する人は、会の広報担当者あるいは交流センターの協力員というコミュニティ単会もありますが、「時間が無くてなかなか更新できない」という悩みを抱えながらも、地域の歴史や自然、活動の様子などを、工夫をしながら発信し続けています。

百年塾情報部会のセミナーやアップロードのための応援、コミュニティ推進協議会から単会へ作成のための補助金があったことも大きな支援となりました。

これからも23のコミュニティ全単会が、ホームページを通して互いに影響を与えながら活動を進めることとなります。

りが進行中です。参加者33名は顔なじみになり、和やかな雰囲気のおかげで学習しています。

### 税金・保険料などの「還付金詐欺」が多発しています

#### ●還付金詐欺とは!

市役所や社会保険事務所などの担当者を偽って、「税金や保険料を多く収めたので還付金(返還されるお金)が受け取れる」とどまし、お金を振り込ませるものです。

#### ●どのように連絡してくるの。

電話で「銀行、郵便局やコンビニエンスストアに行き、私の指示通りに現金自動支払機(ATM)を操作してください」等と言葉巧みに現金自動支払機(ATM)のある場所に行かせ操作させます。

お金が還付されるものと思いながら操作すると、本人が気づかないうちに、他人(犯人)の口座にお金を

振り込まれてしまいます。

☆還付金を現金自動支払機(ATM)で返還することは絶対ありません。

☆「携帯電話」を持って「現金自動支払機(ATM)」へと言われたら還付金詐欺です。

☆相手の言った電話番号をう呑みにせず、ちょっとでも疑問に思ったら電話帳などで番号を確認して関係機関に問い合わせるか、警察、消費生活センターまたは各地域の市消費生活アドバイザーにご相談ください。

連絡先 日立警察署電話【#9110】

日立市消費生活センター 電話 33-3129

IP電話 050-5528-4916



## 単会リレー訪問

## 特色ある活動を紹介(Ⅳ)

概ね小学校区をエリアに活動する23のコミュニティ単会 支援、環境、生涯学習など地域の特徴を活かしながら住民  
があります。地域福祉、防犯・防災、青少年育成、子育て とともに進めています。単会の特色ある活動を紹介します。

### ユニークな活動でまちをつくる 豊浦学区まちづくり推進会

日立市豊浦支所に併設する豊浦交流センターに、豊浦学区まちづくり推進会の山田孝志会長と佐々木春夫事務局長を訪ね、話を伺いました。

豊浦学区まちづくり推進会は、平成16年に作成した、まちづくりプランに基づき、それまでの「豊浦学区自治会」を現在の名称に改変、組織の体制も9専門部体制に改め、学区内のさまざまな団体が、それぞれ



地域の魅力も映像に残します

の団体の特性に合わせて専門部を担当し、住民の要望を中心に活動を進めてきました。

豊浦学区の取り組む事業のなかに、文化部の取り組むふるさと映像化事業があります。これは交流センターの自主グループ「歴史探訪クラブ」とタイアップし、以前に作った地域マップをグレードアップし、地域の名所旧跡や文化遺産などを映像として残そうというユニークな活動です。5か年計画の3年が過ぎ、ほぼ最終段階に入っているそうです。

環境美化部の取り組む花いっぱい運動にも力を入れています。住民や地域の団体、子どもたちも巻き込

みながら、街路樹の根元で花を育て、6号国道沿いの花壇では、フェルトに穴をあけて苗をうえる工夫をして育てたり、エコを取り入れた活動も活発に行っています。この活動に対して平成19年に国土交通省から感謝状が贈られました。

20年度の新しい事業として、今まで行ってきた夏祭りを見直し、川



### 花で地域がつながる 大みか学区コミュニティ推進会

大みか交流センターを訪ね、会長の川村広さんと事務局長の村山達男さんに話を聞きました。

新体制が立ち上がり、今年も「明るく、住みよい福祉のまち、大みか」を目指して活動を進めています。地域での生涯学習事業が軌道に乗り「大みか大学」が開校。受講生は現在70名で、女性が約8割を占めています。年会費は1000円。毎月第4月曜日に専門家による講話を行っています。鉄道の話、認知症の早期発見と予防、異文化の話、防犯意識の高揚、介護予防などのほか、音楽会や研修会もあり、人気があるのは外出しての研修会だそうです。

また、今年から始まった花いっぱい運動の一環として「フラワークラブ」が誕生しました。大みか学区コミュニティ推進会が主体となり、一般住民、地区社協、日製関係、日立電鉄、商店会などが連携し、多くの人が会員になり、週2回の手入れや管理を交替で行っています。

尻港で行う花火大会を、まちづくり推進会の手で14年ぶりに復活させ、多くの住民に喜ばれました。

今年度新しく会長に就任した山田会長は、これからも新旧住民がうまく融和する事業、安全安心の地域づくり事業などに力を入れ、「ふれあいのある明るく住みよい豊浦」をつくりたいと話していました。



さらには、「コミ推杯ゴルフ大会」の実施、「大みか納涼祭」も賑やかさが増してきました。地元の人が作



学び親睦を深める

詞・作曲・編曲した「おおみか音頭」の唄と踊りが登場し、この唄と踊りが大みかのシンボルとなることを期待していました。

大みか市民報は年3回発行、「かわら版」は毎月1回発行しています。毎月の交流センターの行事予定やお願いごと、お知らせなどを住民に知らせるために発行しています。今年は交流センターの10周年、記念誌の発行を予定し企画中です。

会長は今後の課題は、一人暮らし高齢者への対応として、隣り同士の声かけ、会話などを多く取り入れた内容が必要、実現していきたいと話していました。